



【12月10日（土） 曇天 時々 大雨】

●休日モードの土曜日の会場

土曜日はバスの運行スケジュールが休日モード。人数が少ない分、いつもに増して冷房の寒さが浸みってくる。会場には、学校が休みになった若い地元の高校生ボランティアが目立った。ブースに着くと、まず前日に置いていった残部資料の整理から1日がスタートした。

ブース当番をしながら、カンクン・レポートを書いていると、前日に踊っていた高校生たちがやって来た。高校生プログラム故、夜のサイドイベントは時間の縛りで参加できなかったことを詫び、ふゆみずたんぼの動画が欲しいとのこと。アレフさんが置いていった「田んぼでタンゴ」のキャラクターのステッカーと、裏面にYouTubeのURLを書いて渡したところ、非常に喜ばれた。

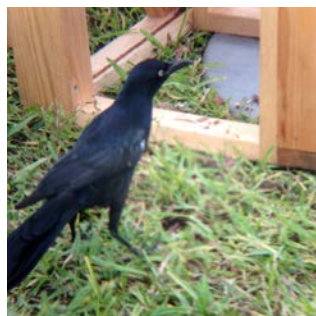
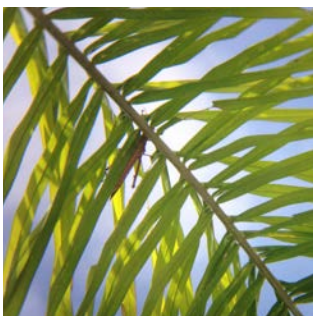


↑ホテルの前の道とモニュメント



↑国際会場の建物に向かう歩道

この日は、中庭（外）でランチを食べた。途中から雨が降ってきて、慌てて中に入ることになったが、外にいと鳥や虫がいて、見ていて楽しい。



●先住民と地域共同体

12月9日～11日の3日間、「Múuch'tambal」先住民の経験に関するサミットが開催された。このサミットの目的は、伝統的知識、生物学および文化的多様性、先住民や地域社会、締約国や国際組織からの経験を発表し共有することである。

2日目の第2パネルディスカッション「生物多様性の利用、管理、そして保全」の中で、呉地さんが田んぼ10年プロジェクトや、蕪栗沼での取り組みを紹介した。



↑先住民サミットでの呉地さんの発表

●CBDアライアンスの戦略会議

CBD会期中ECOというニュースレターを毎日発行したり、バイオパイレーシー（生物資源の盗賊行為）を批判する海賊キャプテンのパフォーマンスを行うなどCBD COPにおいて活動を続けてきた。

しかし、古株の主要なメンバーは会議での情報収集に忙しく、毎朝のミーティングにおいても参加者の温度差が見られるため、今後の活動をどうして行くのか

を検討する戦略会議が開かれた。

現在のCBDアライアンスのコーディネーター役を務めるガディール・ラヴァデス氏がファシリテーターとなり、CBDアライアンスへの参加歴の古いグループ、中堅のグループ、そして新参のグループの3つに分かれて、CBDアライアンスに参加して「期待することは何か?」「自分が貢献できることは何か?」を発表しあった。私が参加した中堅グループでは、期待する内容は、幅広いCBDのテーマをひとりで追いかけることができないので、仲間と情報共有する情報源としての利用が最も多かった。また、市民の声を届けるための手法を経験のある運動家から学びたいといった意見もあった。貢献できることとしては、参加手引き書の作成や、各自の得意分野を活かし相互連携することなどがあった。

また、会のあり方についても協議された。現在の誰でも簡単に参加できる仕組みだと、NGOになりすました企業スパイが潜り込んで参加することが防げないので、非公開と公開の部分に分けるなどの提案があったが、結果として、時間切れとなってしまう、具体的に次にどうするか?については決めることができなかった。

【12月11日(日) 曇天のち晴れ】

●鳥の観察

日曜日でもあり会議場に向かわず、地球環境基金の申請書類の締め切りが迫っているため、呉地さん、柏木さんと後藤の3人で作業をする日とした。サイドイベントが終了し、少し気持ちに余裕ができたのか、作業をしながら鳥を観察した。



※YouTubeにホテル前で撮影した鳥の動画をアップ。

<https://youtu.be/PQFQRhNpims>

(レポート：後藤尚味)